昭和25年5月6日第三種郵便物認可
©鉄鋼新聞社 2017

2月7日
2017年
（平成29年）
火曜日
第18767号（日刊）
土、日曜・祝日は休刊

Metal & Technology
鉄鋼新聞

発行所 株式会社 鉄鋼新聞社
本社 東京都千代田区神田神保町1－101 神保町101ビル
編集局 ☎03(5259)5203 FAX03(5259)5209
業務部 ☎03(5259)5202 FAX03(5259)5208
大阪支社 ☎06(6445)6935 FAX06(6445)6938
名古屋支社 ☎052(735)6556 FAX052(735)6557
http://www.japanmetaldaily.com
Eメール:info@japanmetaldaily.com

トルコの表面処理鋼板合弁

ブリキとカラー鋼板 今月から営業生産

東洋鋼鈑 4月以降、一貫生産目指す

東洋鋼鈑は、トルコで現地の電炉メーカー「トスヤル・ホールディングス」と建設を進める表面処理鋼板の合弁工場において、今月からブリキとカラー鋼板の営業生産を開始する。一部のラインが立ち上がるのに伴い、下松事業所（山口県下松市）や外部から調達する原板で出荷に対応する。構内ではホットコイルからの一貫生産に向けた整備を進めており、4月以降の全面操業を見込む。

現地では日本から派遣する2人を含む営業社員が、店売り向けをはじめ同国内や中近東、北アフリカといった周辺地域で拡販活動に取り組んでいる。

東洋鋼鈑をめぐる鋼板関連事業の輸出比率は、16年4～12月期時点の売上高ベースで前年同期（22%）とほぼ横ばいの21%で推移する。鋼板は16年4～12月期に自動車向けで前年同期を上回る販売数量となったほか、磁材料と電子材料は自動車・産業機械向けに堅調に推移した。

6日に東京都内で開催した決算説明会で明らかにした。現在は「ほとんどの生産設備が完成している状況」（同社）にあり、タンデムミルや連続焼鈍ラインなども順次稼働に入る予定という。

世界初 ジェットアルセロール・ミッタル

アルセロール・ミッタル（AM）はベルギーのリエージュ工場で6300万ユーロ（約75億円）を投資するジェット蒸着（JVD）による金属表面処理設備を導入したと発表した。AMによるJVD技術を用いた表面処理鋼板は鉄鋼業界世界初で、自動車機向けに供給する。

日本製鋼所社長に宮内常務

日本製鋼所は6日、宮内直孝取締役常務執行役員（59）が4月1日付で社長に昇格すると発表した。佐藤育男社長（68）は取締役となり、6月に取締役を退任して相談役に就く。

佐藤社長は在任8年。〝原子力ルネサンス〟が叫ばれた時代に就任し、室蘭製作所の大型投資を仕上げたが、東日本大震災を境に事業環境が一変。産業機械事業の成長戦略を軌道に乗せる一方、室蘭再構築など鉄鋼事業の再建を着実に進めた。原子力・石油関連など鉄鋼事業を取り巻く環境が一段と厳しさを増す中、2018年度スタートの新中期計画の策定を含めて次世代にバトンタッチする。

宮内 直孝氏（みやうち・なおたか）81年（昭56）中央大精密機械工学科卒、日本製鋼所入社。07年広島製作所樹脂加工機械部長、11年広島製作所副所長、13年執行役員広島製作所長、15年常務執行役員産業機械事業部副事業部長、16年取締役常務執行役員特機本部管掌、機械事業部長。

入社後は東京製作所（当時）でパワーショベルの設計に携わり、横浜製作所、広島製作所で樹脂機械の経験を積んだ〝機械屋〟。高成長商品であるフィルムシート製造装置を伸ばした立役者でもある。室蘭を中核とする鉄鋼事業の再構築と産業機械事業のさらなる伸長。二つの命題を佐藤社長に託された。佐藤社長は「問題に対する取り組みが真摯」と太鼓判を押す。

同社は16年3月期に室蘭関連の減損処理を行い、鉄鋼事業の損益分岐点は大きく下がった。しかし、国内原子力発電所の再稼働の遅れや石油関係の低調などで需要環境の好転は「想定していた見られるということでもある。鉄鋼事業部長（柴田尚取締役常務執行役員）とよく相談し、祖業である鉄鋼を何としても再建する」と決意は固い。室蘭再構築を確実に実行するとともに、新たな成長戦略も描いていく。佐藤社長時代に鉄鋼と産業機械の部門間交流が進んだ。「やりやすい雰囲気ができているし、さらにコラボレーションを進める」とも。

1年前の取締役就任が伏線だが、内示は昨年末。「家族にも相談しなさい」と言われて、少し間を置いて昨年中にお返事した」そうだ。「鉄鋼事業は極端に言えば岐路に立っている。やり遂げるのは大変な労力だろうが、期待していただき、役割を与えられたからには、思う存分やる」と。6月に相談役に退く佐藤社長はよき相談相手となりそうだ。

（谷山 恵三）

社長に内定した宮内氏

産業機械出身 問題に対する取り組み真摯

より3年ほど延びそうで、3年後の回復も不確定」（佐藤社長）。17年度は次期中期計画を策定する年であり、「次を担う若い人に中期計画を練り、実行してもらう」（同）と白羽の矢が立った。

鉄鋼事業に関わる場面が昨年から増えた。「産業機械ほど鉄鋼を知らないが、従来にない視点で見られるということでもコラボレーションを進めようだ。

（谷山 恵三）

線材と線材製品
D6コイル・直棒
鉄線・ナマシ、釘、針金
ワイヤーメッシュ
吾 坂野興業株式会社
本社 ☎03(3718)7311(代)
目黒 ☎03(3712)2530
静岡 ☎05462(4)1101
浦安 ☎047(354)6531

日本冶金工業

通期業績予想を上方修正

経常益20億円、配当2.5円

日本冶金工業は6日、17年3月期通期連結業績予想を上方修正した。修正後の予想は売上高1110億円（前回予想は1100億円）、経常利益20億円（同14億円）、純利益15億円（同8億円）。前期の経常利益は5億2400万円だったので、大幅増益となる。

ニッケル価格の下げ止まりで在庫評価損が縮小したことに加え、販売数量が増加したことが上方修正の主因だ。

期末配当予想は「未定」としていたが「2・5円」とした。年間配当は1円増配の2・5円となる。

4～12月期
経常益12億円

日本冶金工業が同時に発表した4～12月連結決算は売上高822億円（前年同期比10・1%減）、経常利益12億3千万円（前年同期は1億4800万円の赤字）、純利益11億2300万円（同4億2800万円の赤字）となった。

▼3面に関連記事

中山製鋼所、8期ぶり復配へ

通期連結経常利益 54億円に上方修正

中山製鋼所は6日、2017年3月期の連結経常利益を昨年11月予想時に比べて15億円上方修正の54億円になる見込みとするとともに、未定としてきた期末配当予想も5円配当とした。09年3月期以来8期ぶりの復配になる。

販売増と操業改善によるコスト削減効果が出る。売上高も60億円上方修正の1230億円、純利益11億円上方修正の54億円を見込む。

ステンレス
エキスパンドメタル
ISO 14001 認証取得
各種厚、サイズ製造販売
(株)小河商店
大阪営業部・京都営業部
名古屋本社 052-261-3131
大阪建材 06-6932-4427
京都建材 0774-72-1361
http://www.ogawa-nt.co.jp/

特殊鋼労使懇

大同特殊鋼、山陽特殊鋼、菱製鋼、東北特殊鋼専業6社の政担当役員・鉄鋼部長・鉄鋼業労組委員長が58年（昭）れ。東京・芝公園館で開催した。

幹事会社の特殊鋼業労使懇

10年8月期の0億円の赤字4期連続で13年3月期性化支援を受け着手して経営続で経営ってきたが、常利益益になる。

同日発表した4～12月期～12月期売上高0万円